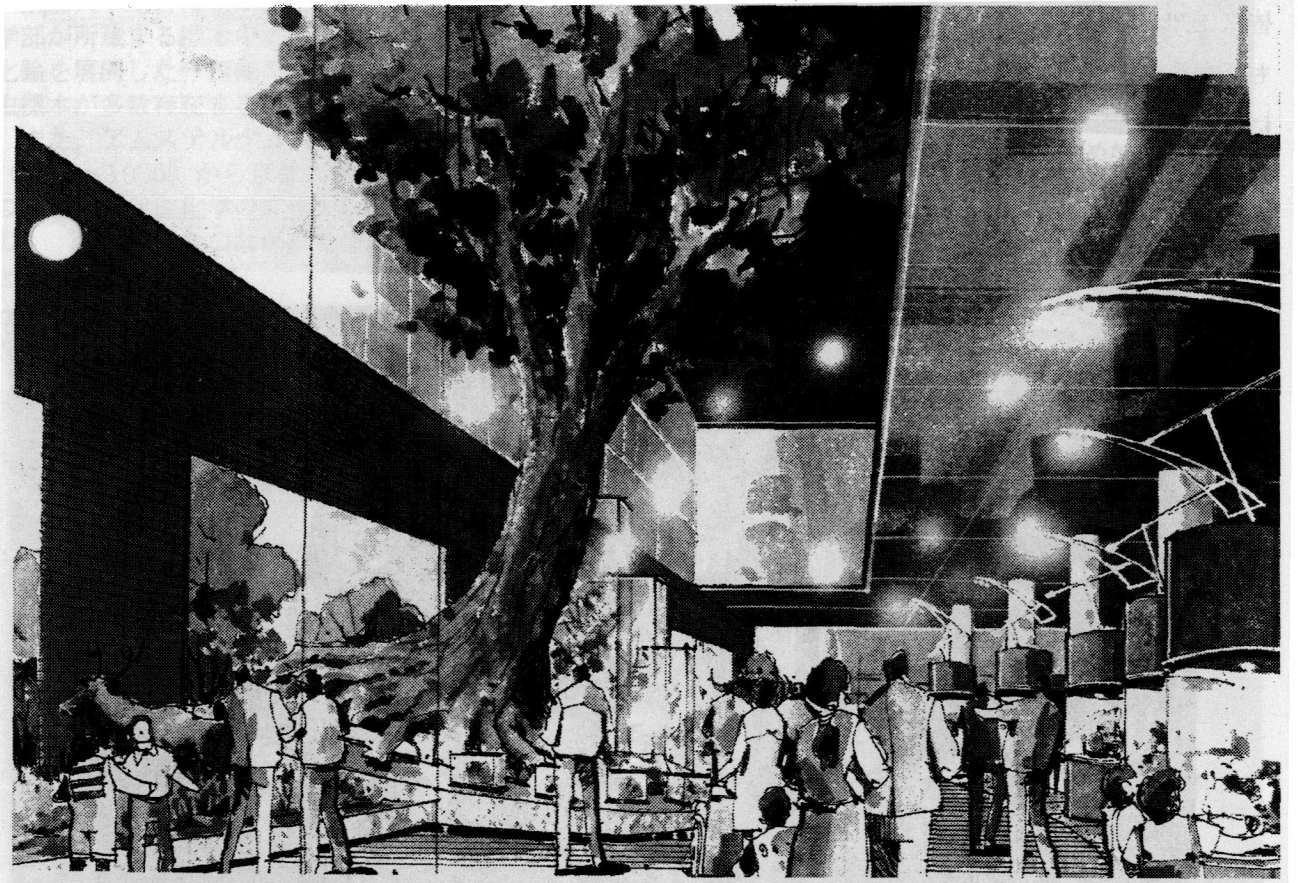


京都大学総合博物館 ニュースレター



THE KYOTO UNIVERSITY MUSEUM
NEWSLETTER



-京大に新しい博物館が生まれます-

発足にあたって

京都大学が蒐集してきた、250万点以上に及ぶ貴重な学術・教育資料の

- 1) 散逸・劣化の心配ない収蔵、
- 2) 研究や教育への活用、
- 3) 一般市民への公開、

を目的として、1997年4月1日京都大学総合博物館が発足しました。

10名の研究スタッフは、総合博物館の名にふさわしく自然史、技術史、文化史にまたがっています。

事務官5名（来年度より6名体制）とも力を合わせ、2年後の開館に向け、全力疾走を開始しました。

このニュースレターは、総合博物館のイメージを皆様に知っていただくために作りました。これからも、頻繁にバージョン・アップし、建設状況を皆様にお伝えいたします。どうか、総合博物館の誕生に暖かいご支援をたまわりますようお願いいたします。

館長

河野 昭一

総合博物館発足祝賀会開催

4月1日18時より、芝蘭会館にて50名近くの来賓を迎えて総合博物館発足祝賀会が開かれた。

本学井村裕夫総長、喜志哲夫文学部長、あるいは、鎮西清高、獅山慈孝、岩井保の各名誉教授から新生総合博物館に暖かいエールがおくられた。

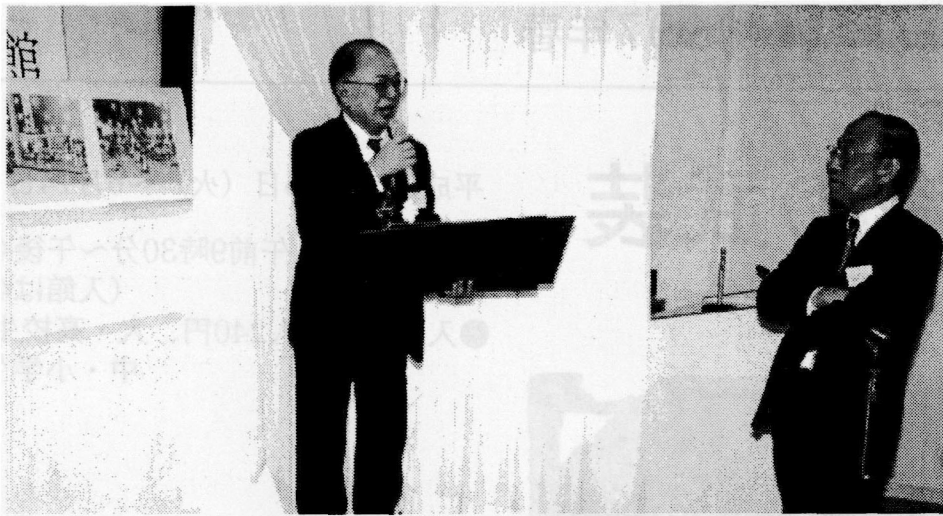


井村裕夫総長の祝辞



(←表紙イラスト=新博物館の展示イメージ)

私たちが創ります-博物館のスタッフ勢揃い



井村裕夫総長に展示プランを説明する河野昭一館長

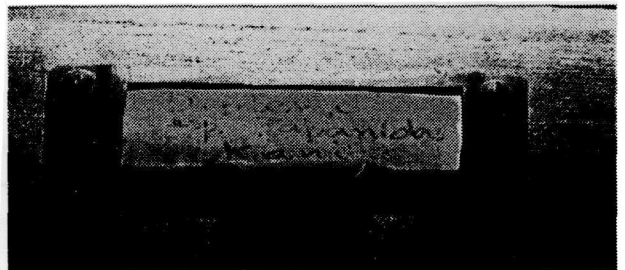
今西・可児らの収集標本発見

—京大農学部・プレハブ標本館から—

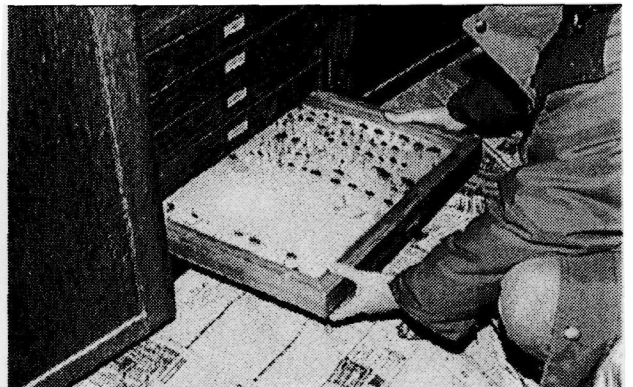
突然変異による進化を唱えたHugo de Vriesから寄贈された標本も

京都大学総合博物館設立準備のための調査で、農学部が所蔵する標本中に、棲み分け理論や独自の進化論を展開した今西錦司や可児藤吉らの収集した昆虫標本が多数存在することが明らかになった。

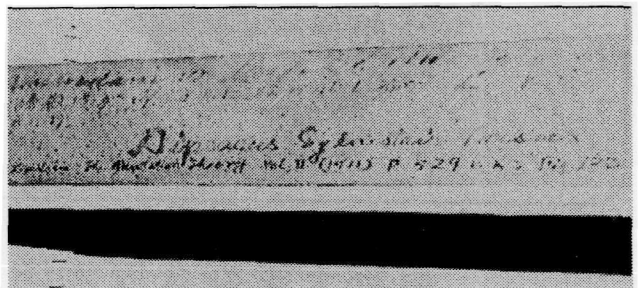
また、アムステルダム大学のHugo de Vries (1848～1935) から京都大学に寄贈された標本も見つかり、近代進化学の成立期にすでに京大が、欧米の所と密接なつながりを持っていたことも明らかとなった。



可児藤吉の収集した標本を納めた引き出しのラベル。Kaniとローマ字で書かれる。



今西錦司が収集した昆虫標本を納めた引き出し



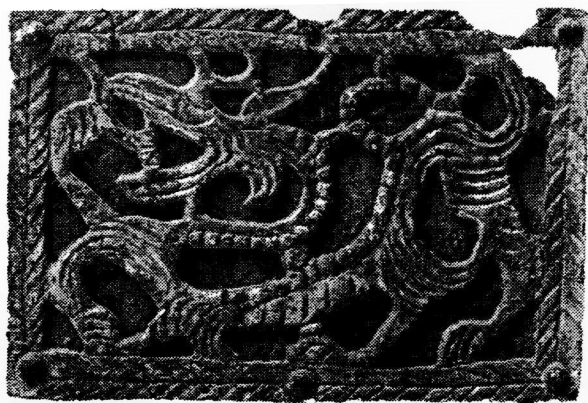
Hugo de Vriesから寄贈された標本

プレハブ標本館には、京大の海外遠征の際に収集された菌類標本も多数収蔵されている。梅棹らが収集した可能性も指摘されている。

春季企画展

王者の武装

5世紀の金工技術



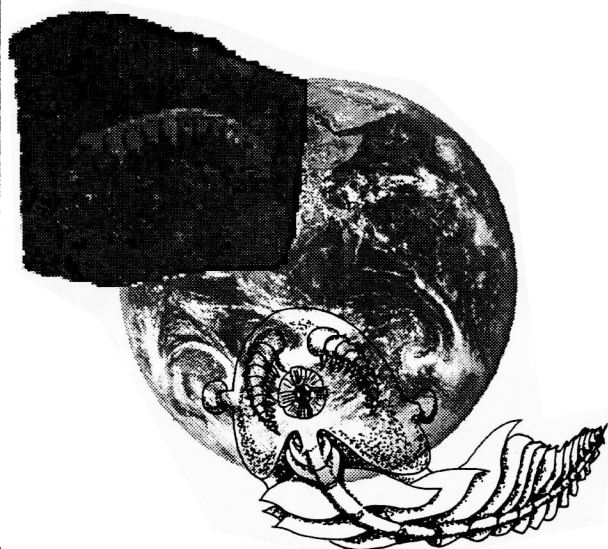
平成9年4月15日（火）～6月14日（土）

- 開館時間：午前9時30分～午後4時30分
（入館は4時まで）
- 入館料：大人240円、大・高校生170円、
中・小学生110円

公開講座

博物学の展望

-21世紀へ向けて-



5月10日（土）河野昭一館長
地球環境の未来と生物多様性

5月17日（土）大野照文教授
化石が語る地球の歴史

5月24日（土）中坊徹次教授
海が語る地球の未来

5月31日（土）山中一郎教授
5万年前のヒトに学ぶ

- 時刻：各回とも13時30分～16時
- 会場：総合博物館（旧文学部博物館）
3階講演室
- 受講料：全回を通して5400円
- 申し込み：官製往復はがきで、下記住所
に、4月25日までに申し込み下さい。
- 定員60名（申し込み多数の場合は抽選）

京都大学総合博物館

〒606-01 京都市左京区吉田本町
電話075-753-2721